



公益社団法人日本歯科先端技術研究所

関東甲信越地区開催講演会

「補綴・インプラント治療を管理栄養士と

チームで行う抗加齢とフレイル予防」

一咀嚼機能回復から体組成・代謝の改善を最終目標とする新インプラント治療一

〔講師〕

武内 博朗

鶴見大学歯学部臨床教授
医学博士・3DSの開発研究者
医療法人社団 武内歯科医院理事長



- 日本大学歯学部卒業
- 横浜市立大学医学部研究科 大学院修了
横浜市大医学部附属病院歯科口腔外科勤務
- ドイツ国立・マックスプランク研究所免疫遺伝研究部職員
- ハイデルベルク大学医学部分子腫瘍研究部職員
- 国立予防衛生研究所口腔科学部う蝕室研究員
- 日本抗加齢医学会専門医
- 日本口腔衛生学会認定医
- 国立感染症研究所客員研究員

2021年 9月19日 日

13:00～15:00

会場: Web開催

東京都港区芝1-8-25芝TKビル4F

ZOOMによるWeb開催

会 員 : 無 料

非会員 : 3,000円

インプラント補綴栄養学

●インプラント補綴治療は、栄養・代謝・体組成改善の目的で、摂食・栄養摂取環境を整えます。糖質偏重食とタンパク質低栄養が回避出来ることで、代謝や体組成の改善が可能になるのです。すなわち骨格筋量が増加すればサルコペニアやフレイルの予防になります。これが人生100年時代の新しいインプラント補綴の目標と大義です。

咀嚼機能が低下した状態では、糖質摂取量が増加する一方で、低GI食品・タンパク質、抗酸化物質・食物繊維、ビタミン・ミネラル群などの摂取量が低下します。結果として、ブドウ糖負荷の増加およびタンパク質低栄養になります。このことから高血糖およびHbA1cの悪化と骨格筋量低下を招きます。

それでは、“インプラント補綴による健康増進効果”をどのように引き出し、評価すべきでしょうか。咀嚼能力改善を客観数値化した次の課題は、インプラントと同時に行う保健指導で体組成と代謝指標を改善します。それを数値化して評価することです。これからは、栄養療法における歯科補綴分野の確立が望まれます。

日先研会員 武内博朗 [http:// www.takeuchi-shika.jp](http://www.takeuchi-shika.jp)

関東甲信越地区会長 柴垣博一

申し込み
お問い合わせ

公益)日本歯科先端技術研究所事務局

TEL: 03-5476-2004

nissenken@dental.email.ne.jp

必要記入事項

- ・氏名
- ・氏名(カタカナ)
- ・E-mail
- ・連絡先TEL
- ・日先研会員か非会員